

研究室での心がけ

大学における研究室とは、単に研究活動をおこなうための場ではなく、人間形成をおこなう教育の場でもあります。こうした場の構築には、研究活動に携わるすべての学生諸君も大きな役割を担っていることを忘れてはいけません。皆さんがこの「研究室での心がけ」を座右に置き、少しでもこれを日常的に意識してもらうことを期待します。

理工学部・理工学研究科

1. (人間関係の構築)

学生から教員・後輩から先輩への、あるいは同輩の間での報告・連絡・相談が活発におこなわれる環境作りと、これらをとおして研究室における円滑な人間関係の構築に努力する。

2. (基本姿勢の体得)

課題の発見や認識、課題解決に向けた討論、さらにはデータの保存や取り扱い方など、研究者としての基本的な姿勢や行動だけでなく、科学者または技術者、さらには社会人としての倫理観やモラルの形成も、研究室内の人間関係を通じておこなうよう努力する。

3. (知識の伝達・習得)

専門分野に関わる知識・教養・経験の伝達や習得に留まらず、大学の学則や研究に関わる法令・規則・手続きの理解も、研究室での人間関係を通じておこなうよう努力する。

4. (情報の共有と守秘)

研究室での役割を積極的に担い、研究環境の維持に寄与しつつ、知識・ノウハウ・技術の共有と蓄積に努めると同時に、研究上知りえた個人情報や特許などの知財情報について、研究室外第三者への漏洩に注意する。

5. (失敗の共有)

自己や他者の失敗や過失、社会規範やモラルからの逸脱について、その原因や結果に関する情報を共有し、それらを繰り返すことがないよう教訓として学び、危機からの回避や安全の確保を実践できる人間関係を構築する。

6. (他者からの評価)

研究室を構成する者どうしが、互いの人格や人権を尊重すると同時に、互いに批評・評価を積極的かつ率直に受け合うことによって、自己の規範や言動に関する合理性や正当性の確認がおこなえる人間関係を構築する。

7. (信頼と信用の獲得)

以上の活動や人間関係を通じて、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科の構成員としての品格を身につけ、研究室の内外から信頼や信用を得るよう心がける。

以上